



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

アルジェリア：「カリフの兵士」がフランス人人質を斬首

9月24日、「アルジェリアの地のカリフの兵士」を名乗る団体が、22日に処刑予告をしたフランス人人質エルベ・ピエール・ゲーデル氏を斬首した映像を発表した。

「フランス政府への血のメッセージ」と題した映像では、ゲーデル氏の背後に覆面をした男らが立ち、フランスがイラクでムスリムを殺し、イスラームとの戦争に参加していることを非難した。そして、「不信仰者」西欧諸国によって侵略されているムスリムの地を守り、カリフ国（「イスラーム国」）を防衛するため、フランス人人質を殺害すると述べ、ゲーデル氏を処刑した。

評価

「カリフの兵士」が22日に発表した声明映像では、同団体は、24時間以内にフランスがイラク攻撃を停止しなければ人質を処刑すると予告していた。今般の事件の特徴は、「カリフの兵士」なる団体が明らかに「イスラーム国」の手法を模倣していることにある。まず斬首という処刑方法を踏襲した。そして、人質処刑映像のタイトル「フランス政府への血のメッセージ」も、「イスラーム国」が米国人・英国人人質の処刑を発表した映像のタイトル「アメリカへのメッセージ」と酷似している。

問題は、今後、「カリフの兵士」のように「イスラーム国」の手法（人質捕獲、斬首、映像・画像発表）を真似る過激派団体が現れるかどうかである。同じような手法を採用する団体が増えれば、一般市民の犠牲者もさらに増える可能性があるためである。

（イスラーム過激派モニター班）

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799